

2025年度事業計画

I 経営方針

日本気象協会の実施事業は、時代とともに大きく変遷してきたが、ここ数年は、エネルギー関連事業が過去に例をみないスピードで伸長してきている。防災の観点からは、鉄道の計画運休や道路の予防的通行規制なども社会から受容される時代となり、政府においては防災庁の設置準備も進められている。また、社会のさまざまな価値観が変容を遂げていく中で、SNS が社会に及ぼす影響力は着実に増大しつつある。

このような状況にあって、日本気象協会にはこれまで以上にスピード感を持って時代の変化に適応し、ニーズに即したサービス提供に向けて利益の確保が求められる。また、事業の適切なポートフォリオを絶えず追求し、組織を迅速・柔軟にコントロールしていく経営判断も必要となる。

2025 年度は、日本気象協会を迅速・柔軟で、より強靱な組織へと「変革」していくことを基軸とした、以下の「7 つの経営戦略」（①組織戦略、②ビジネス戦略、③技術／IT 戦略、④広報戦略、⑤マネジメント戦略、⑥成長投資戦略および⑦サステナビリティ戦略）を実践することにより、技術力・管理力・成長力を高いレベルで確保し、組織の利益体質の強化を図る。

II 経営戦略

（1）組織戦略

機動性の向上と新しい価値の創造をさらに追求するため、社内カンパニー体制と2本部制への移行、COO（最高執行責任者）直下の事業統括部の新設など、組織の大胆な変革を実施する。

（2）ビジネス戦略

エネルギー関連事業への資源の投入を最優先する。社会・防災事業は、安定的に利益を生み出すインフラ関連の顧客の市場シェアの拡大と民間のサプライチェーンへの市場拡大を図る。メディア・コンシューマ事業は、社会・防災事業とも連携しつつ、デジタル技術を最大限に活用した新しい価値を創造し、新たな市場を開拓する。

（3）技術／IT 戦略

AI の活用と AI に対する投資を拡大するとともに、AI 人材の確保と育成を促進し、JWA 統合気象予測のさらなる精度向上などを促進する。併せて、クラウド利用環境を整備し、GPU 計算機への投資を検討する。また、システム開発・運用環境の

内製化を進め、社内情報の有効活用を推進する。

(4) 広報戦略

日本気象協会の認知度の向上を目指し、特に若年層に対するアプローチを強化する。また、顧客やコンシューマに、よりブランド力を届けることができる新しいコーポレートサイトを構築する。

(5) マネジメント戦略

魅力的で働きやすく、生産性向上に寄与する職場を実現するため、新たな考課制度や年俸制の導入を進めるとともに、社会の動きに機敏に対応した採用・育成・女性活躍施策など、実効性のある施策を迅速に実践する。

(6) 成長投資戦略

成長投資予算を大幅に増強し、蓄積した利益の効果的な活用を図り、将来の収益力を最大限追求する。

(7) サステナビリティ戦略

サステナビリティ戦略の強化は、企業価値の向上と企業の長期的な成長を支える基盤であるため、日本気象協会の「行動規範」に基づく「行動指針」に記載された下記内容に適切かつ確実に取り組むとともに、取り組み内容の見える化、環境負荷の情報開示、取引先への働きかけ等を実施する。

- ・ 地球環境への配慮
- ・ 人権と多様性の尊重
- ・ 持続可能なサプライチェーンの構築
- ・ 法令、社会規範の遵守
- ・ 知的財産と情報の適切な管理
- ・ 品質と安全性の確保
- ・ 社会との共生
- ・ 安全で衛生的な労働環境の確保

Ⅲ 公益目的支出計画

2025 年度の公益目的支出計画は下記の区分で実施し、実施後に内閣府公益認定等委員会に報告する。

a) 一般市民への防災知識等の普及を図る事業（継続事業 1）

- ・ 気象・気候等に関する講演会・講習会の実施および講師の派遣
- ・ 国や地方自治体の防災イベントへの参加、協賛等
- ・ 拡張現実 (AR) 技術を活用した豪雨・暴風の疑似体験装置を通じた防災・減災意識の普及啓発

- ・低年齢層を対象とした防災知識普及、キャリア教育の実施、職場訪問の受け入れ、防災漫画等の寄贈
- b) 調査研究の成果を広く学術・科学技術振興に供する事業（継続事業 2）
 - ・京都大学防災研究所に設置した寄附講座「気象水文リスク情報研究部門」における革新的な気象水文情報に関わる先端研究の推進
 - ・京都大学と波浪予測精度向上を目指した「漂流ブイ・データ同化共同研究」の推進
 - ・政策研究大学院大学と共同する防災政策研究教育の推進
- c) 公益事業の事務局を運営しその達成を助成する事業（継続事業 3）
 - ・電力気象連絡会および鉄道気象連絡会の事務局運営
 - ・地球ウォッチャーズ気象友の会の事務局業務
- d) その他公益事業

岡田記念事業として、気象事業貢献者の顕彰（日本気象協会岡田賞）を実施する。

以上